学長インタビュー No.15

「体力が勝負！」と語る原田学長は、財団設立に意欲を燃やす

統合移転を終えた今、「真の総合大学」をめざしてギアはトップに入れられ、学長はますます多忙を極める。

今回は、学長の対外的な公務について伺った。聞き手は村上広報委員。

広報委員＝本誌の学長インタビューは、学長の考え方が分かって良い、あるいは学長の人柄がしのばれて興味深いと好意的な意見も届いています。本誌モニターから「学長の対外的な仕事が知りたい」と言う意見がありました。まず、この点からお伺いしたいのですが。

学長＝まず、国立大学協会では第五常置委員会で学術交流の問題を担当している。「留学生十万人受け入れ計画」が進行しており、本学の先生方にもお手伝いしていただきながら、米国をはじめオセアニア地域からの留学生の短期の受け入れについて検討している。

さらに、大学基準協会の理事としての仕事をしている。大学基準協会は昭和二十二年の設立で全国の大学の約七割が加盟しており、加盟大学がどういう改革をしているのか話を聞いたり、大学院の改革状況、重点化の方針について話し合ったりしている。

また、大学設置・学校法人審議会の委員として、私立大学設置に関わる「学校法人」の審査も行っている。国立大学の学長として任命されているのは私だけだが、私学の学長の先生方とともに、いろいろとお世話をさせていただくわけです。

以上が主に国の仕事だが、地方では県や市の審議会の委員を引き受けており、これらの審議に関わっている。また、各種団体の仕事、例えば、科学技術や研究に関する賞の決定や奨学金の助成などにも関わっている。

こういったたくさんの審議会に関わっていることから、比較的高いところから国、県、市の教育の状況を見られる立場にあるため、広島大学の今後についても敏感にならざるを得ない。

本誌も含め、広報活動についてどのように考えておられるのか学長のお考えをお聞きしたいのですが。

「広大フォーラム」は大変すばらしい広報誌だ。

昨年度もたくさんの施設が本学にできたが、皆さんにはあまり知られていないのが現状かもしれない。皆さんにもっと知っていただき、研究者間の交流を深めるためにも、また、有効的にこれらの施設を利用していただくためにも情報の提供は大切だ。

聞き手 村上広報委員

また、これだけたくさんの研究者がいて、どんなすばらしい研究をしているのかお互いに知り合える場として、あるいは知らせるための場としても、大変重要なのは広報活動だと思う。

「広大フォーラム」は、できれば卒業生にも安く購読してもらえるようになればよい、と思っている。

日本がこれからの国際社会で生き残っていくためには、基礎研究や科学技術の振興が必要と思われます。今後を考えると、やはり大学を中心に公的な資金がもっと投入されるべきだと思います。この点についてはいかがでしょうか。

残念ながら現在は景気があまり良くないが、不景気になればなるほど大学に対する期待が高まり、大学に対するテコ入れが当然起きてくる。これらのテコ入れは基礎研究のためにも大切だが、ベンチャー・ビジネスを起こすことか大学の研究の実用化など、日本の国益に反映するようなことが求められてきているし、予算化もされてきている。また、サイエンスパークに地域共同研究センターができるが、今後は、大学と他の研究所との共同研究がどんどん進んでいくと思う。

私は広島大学を、世界に最も情報を発信できる大学にしたいと思っている。そのためには、個々の研究者が世界に問うような仕事をしていただき、個が集まっての集合体がいかに大きな力になるのかを認識していただきたい。

最後に、学長から何かありましたらお願いします。

本学は、三年後の平成十一年に創立五十周年を迎えるが、五十周年に向けて財団をつくる準備を始めた。財団は、留学生の援助や研究者の海外派遣そして学術振興を目的としたもので、財団の基金を集めるのは大変なことだが、十億円以上の基本財産を持つ大きな財団にしたいと思っている。

今年中には財団の基礎をつくりたいと考えているが、同窓生にも趣旨を理解していただき、是非とも協力していただきたいと思っている。

日時　平成八年一月二十九日(月)
場所　学長室